



平成24年12月26日

各 位

会 社 名 株式会社 銀座山形屋
代 表 社 名 代表取締役社長 山形 政弘
(J A S D A Q コード番号 8 2 1 5)
問 合 せ 先
役職・氏名 管理部長 渡辺 光潤
電 話 03-6680-8711

(再訂正)「平成23年3月期 第2四半期決算短信」の一部訂正について

平成24年11月14日に発表いたしました「(訂正)平成23年3月期 第2四半期決算短信の一部訂正について」の記載内に一部再訂正がありましたのでお知らせいたします。

なお、訂正箇所につきましては、__下線を付しております。

訂正理由については、平成24年12月26日開示の「過年度有価証券報告書、過年度決算短信等の一部再訂正に関するお知らせ」をご参照願います。

なお、数値データにつきましては訂正はございません。

以 上

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

【訂正前】(2ページ)

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、世界経済の緩やかな回復により企業収益に改善の兆しが一部で見られたものの、依然として企業収益や雇用・所得環境は厳しく、急激な円高や株価低迷もあり、先行き不透明な状況で推移しました。当業界におきましても、天候不順の影響や消費者の生活防衛意識の高まりから個人消費は依然低迷が続きました。

このような経営環境のなか、当社グループは「服づくりのこだわり」を第一としたオーダーメイドを柱に、経営資源の集約化を図るとともに、マーケティング力を強化して3基幹ブランド（「銀座山形屋」「サルトリア プロメッサ」「ミスターナ」）毎のお客様をよりはっきりさせながら、お客様満足度の向上に努め、銀座山形屋オーダーメイド販売の注力に取り組むとともに、粗利益率改善に努めてまいりました。しかしながら、8月の記録的な猛暑による影響や低価格商品の定着、セールスの早期化などにより、低調な結果となりました。

経営成績につきましては、売上高2,058百万円（前年同四半期比5.3%減）、販売費及び一般管理費の削減等により経常損失は175百万円（前年同四半期は197百万円の損失）となり前年実績を上回ったものの、資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額等があり、386百万円の四半期純損失（前年同四半期は194百万円の四半期純損失）となりました。

事業のセグメント別では、小売事業が売上高1,026百万円、営業損失144百万円、卸売事業が売上高744百万円、営業損失57百万円、受託縫製事業が売上高273百万円、営業損失55百万円となりました。

【訂正後】(2ページ)

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、世界経済の緩やかな回復により企業収益に改善の兆しが一部で見られたものの、依然として企業収益や雇用・所得環境は厳しく、急激な円高や株価低迷もあり、先行き不透明な状況で推移しました。当業界におきましても、天候不順の影響や消費者の生活防衛意識の高まりから個人消費は依然低迷が続きました。

このような経営環境のなか、当社グループは「服づくりのこだわり」を第一としたオーダーメイドを柱に、経営資源の集約化を図るとともに、マーケティング力を強化して3基幹ブランド（「銀座山形屋」「サルトリア プロメッサ」「ミスターナ」）毎のお客様をよりはっきりさせながら、お客様満足度の向上に努め、銀座山形屋オーダーメイド販売の注力に取り組むとともに、粗利益率改善に努めてまいりました。しかしながら、8月の記録的な猛暑による影響や低価格商品の定着、セールスの早期化などにより、低調な結果となりました。

経営成績につきましては、売上高2,058百万円（前年同四半期比5.3%減）、販売費及び一般管理費の削減等により経常損失は175百万円（前年同四半期は197百万円の損失）となり前年実績を上回ったものの、資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額等があり、386百万円の四半期純損失（前年同四半期は198百万円の四半期純損失）となりました。

事業のセグメント別では、小売事業が売上高1,026百万円、営業損失144百万円、卸売事業が売上高744百万円、営業損失57百万円、受託縫製事業が売上高273百万円、営業損失55百万円となりました。